

## エサの違い

ノグチゲラは木の実、昆虫、クモなどいろいろなエサをヒナに運んでいます。ノグチゲラのオスは頻りに地上でエサを採り、土の中にあるクモやセミの幼虫を、メスは木の幹でエサを採ることが多く、木の中に住むカミキリムシの幼虫を多く運んできます。

オスとメスが違う位置でエサをとることで、狭い範囲でより多くのエサを採ることができます。



オオムカデを運ぶノグチゲラのオス親



カミキリムシの幼虫を運ぶノグチゲラのメス親



地上でエサを探すノグチゲラのオス



地上で採餌するオス成鳥(右)と幼鳥(左)



土の中からエサを掘り出すため、オスのくちばしには土がついていることがあります。

### ノグチゲラのエサ その1

～キムラグモ～  
地面に穴を掘ってその中に住みます。穴の入り口にはふたがあり、コケなどでカムフラージュされているのでなかなか巣を見つけることができません。



コケでカムフラージュしている巣



ノグチゲラがクモを採ったあと

ノグチゲラはこの巣を見つけ、器用にクモを取り出して捕食します。

### ノグチゲラのエサ その2



～ドングリ～

シイの実などを枯れ木のくぼみや地面、木の根元にあてがい、実を押さえつけてからを割って食べます。



## やんばるの森で独自の進化をとげたノグチゲラ

これまで、ノグチゲラはその色や形態から1属1種とされてきました。しかし、DNAを調べたところノグチゲラはアカゲラ（日本では北海道・本州とその周辺の離島に分布）やオオアカゲラ（日本では北海道から奄美大島まで分布）に近い種であることがわかりました。

頻りに地上で採餌することや土掘りをして餌をとることは、アカゲラの仲間ではノグチゲラにしかみられない行動です。また、ノグチゲラの羽色は林床の色と非常によく似ており、この羽色は空からの捕食者であるツミやハシブトガラスに対する保護色になります。

やんばるにはもともと肉食の哺乳類はいなかったため、安心して地上で採餌できる環境がありました。土掘りすることやこの羽色はやんばるの豊かで独特な自然環境の中で独自に進化していったものだと考えられます。



林床に紛れ込むノグチゲラ



オオアカゲラ  
撮影：松岡茂



## 生息地の減少

ノグチゲラは1880年頃までは恩納岳あたりまで分布していたと言われ、1930年頃には名護岳付近でも頻りに観察されていました。しかし、現在継続して確認されているのは、塩屋湾から東村平良を結ぶラインの北側のみです。



ノグチゲラの分布南限の変遷



伐採跡地

ダムや林道、農地の開発、木材の生産などによる森林伐採のため、生息環境が縮小、分断化され分布域が後退していきました。



## 新たな問題

ノグチゲラが住むやんばるの森にもジャワマングースや、すてられて野生化したネコ（ノネコ）などの外来種がいます。そのマングースやノネコがノグチゲラを襲っていることがわかりました。

また、沖縄で増加しているハシブトガラスがノグチゲラの巣やヒナを襲う様子が頻りに観察されるようになりました。



マングースの胃の中から見つかった

ノグチゲラの羽



マングース



ノグチゲラの巣穴をのぞき込むハシブトガラス